

第2回つくば3Eフォーラム会議開催にあたって

つくば3Eフォーラム議長 井上 勲

つくば市、筑波研究学園都市では、大学、研究機関、自治体が連携して、つくば市を省エネルギー・低炭素の科学都市として構築する研究に取り組むことを目的に、昨年10月につくば3Eフォーラムを組織しました。そして、地球規模で解決すべき喫緊の課題である地球温暖化問題を先行的に取り上げ、12月に開催したフォーラムの第1回会議において、環境・エネルギー・経済の観点から地球温暖化問題の共通理解を図り、筑波研究学園都市のもつ潜在力をさまざまな面から議論しました。そして、筑波研究学園都市が連携して地球温暖化に取り組むことを表明したつくば3E宣言2007で、「あえて2030年までにつくば市のCO₂排出を50%削減する」ことを目標に掲げました。

以来、3Eフォーラムでは新エネルギー技術、バイオマス技術や都市システムに関するタスクフォースを設置して検討を重ねてきました。今回の、第2回3Eフォーラム会議では、まず、これらのタスクフォースの検討をもとに、目標の達成に向けて、筑波研究学園都市で何ができるか、何を進めるべきかを議論し、2030年のつくば市の姿を描き出す作業を進めます。現状を正確に把握して、取り組むべき事項を洗い出し、低炭素のつくばエコシティ構築のためのアクションプランの策定に活かしていきたいと考えています。

タスクフォースでは、これまで主として科学技術面の検討を進めてきました。しかし、低炭素社会の実現には、科学技術の効果的活用だけでなく、省エネルギーの努力や環境意識の醸成、そして価値観の変革が求められます。低炭素社会におけるライフスタイルのあり方を併せて議論しておく必要があります。さらに、将来のつくばは、教育や文化、安全、安心、健康などの面でどんな都市であるべきでしょうか。また、グローバル化のなかで、どのように国際化を進めるべきでしょうか。未来の低炭素社会にはどんな思想や哲学が求められるでしょうか。未来の都市に住む市民の姿について十分に議論しておく必要があります。本会議では、科学技術による取り組みに加えて、低炭素社会で暮らす人間についても、人文科学、社会科学の面から議論し、健康かつ心豊かで、高い社会意識をもった人々を育む国際的教育文化都市作りについても検討したいと考えています。

低炭素社会の実現には、研究開発から省エネ、市民の生活や価値観の変革まで、多くの活動を統合的なシステムとして進めていく必要があります。そのためには、行政、産業界、大学・研究機関、市民、学生など、つくば市に関わるすべての組織や個人がプレイヤーであり、これらの構成主体が合意し、連携して取り組む体制の構築が不可欠です。現在、つくばでは、主体間の連携が急速に進みつつあると認識していますが、第2回つくば3Eフォーラム会議が、パートナーシップをさらに加速する役割を果たすことを期待しています。活発で建設的な議論をお願いしたいと思います。